



1. 藁を円柱状に固めた胴体部品に襟を一枚ずつ巻きつけ、着崩れないようしっかりと接着 2. 祝儀袋など、人形用の生地を使ったアイデア和小物も販売 3. 昔ながらの職業用本縫ミシンを使って縫製 4. 襟元の着付け、袴の装着、腕の肉付けが終わった状態 5. 襟布は、細い短冊のような状態に裁断して準備します 6. 工程ごとに並べた状態です



杉浦人形 知多郡東浦町緒川家下1-4
■0562-83-4926 ■http://sugimitsu.com/



(左) 高さ50センチほどの子ども大将。かわいらしさと凛々しさのバランスが取れています
(右) 純金箔押兜は定番。「人形のまち」として知られる埼玉県さいたま市岩槻区の職人、一徳作です

昔ながらの手作業でひな人形をつくる杉浦人形。3代目の杉浦勝己さんと孝子さん夫婦は、桃の節句後も6月の展示会に向けて新作に取りかかっています。
ひな人形の製作は、頭部をつくる頭師（かしらし）、胴体や着物をつくる着付師、手足をつくる手足師、持ち物やかぶり物をつくる小道具師などによる分業制。杉浦さんは、平安杉光の作家名を父の光男さんから受け継ぎ、着付師としてひな人形をつ

くつてきました。サイズや着物の柄を決めるところから仕事は始まります。次に胴体の芯を藁か桐のどちらから決めると削って成形です。その後、襟布を胴体に巻きつけて接着。袴を履かせたら腕の芯になる針金を胸部に通して束ねた木毛で肉付け。続いて、縫製しておいた着物を何重にも着せていきます。最後に振り付けをして完成。振付けは肩や腕を曲げて人形のポーズを決める作業のこと。少し位置がずれるだけで、見栄えが変わるので重要な工程です。
人形はいくつもの工程を経て頭部のない状態で卸され、問屋が頭部を取り付けてから小売店へ。杉浦人形の店頭には並ぶ作品は杉浦さんが頭師から頭部を仕入れ、取り付けてから販売されます。



戦国大名をイメージした兜は種類が豊富。上段右からふたつ目は徳川家康の兜です

人が増えています。数年前までは大河ドラマの影響を受け、伊達政宗、上杉謙信、真田幸村など、戦国武将をイメージした絢爛な兜が人気でしたが、武将ブームもやや落ち着き、昔ながらのデザインが息を吹き返しています。
杉浦人形が販売する五月人形や鎧兜は、すべて杉浦さんのお気に入り。「トレンドを意識しながら、自分がよいと思ったものを仕入れています」

とにっこり。「室内に置けるインテリア性の高い鯉のぼりも揃えました。老舗も時代の流れに合わせた動きを取らないといけませんから」と続けました。
桃の節句・端午の節句は親の愛情を伝える儀式
そもそも桃の節句や端午の節句では、なぜ人形を飾るのでしょうか。それは、子どもを病気やケガなどの厄

【巻頭特集】 昭和2年創業の杉浦人形

人形文化と節句の意義を後世に

JR緒川駅のすぐ西にある杉浦人形では、ひな人形の製造・卸・販売、そして五月人形の販売をしています。ひな人形の着付師として半世紀近くの経歴をもつ杉浦勝己さんに、話を聞きました。



さまざまな部品を手作業で組み合わせてつくり出す



(左) 杉浦勝己さんと孝子さん。これからは夫婦二人三脚で人形文化を守っていきます (右) 昭和後期の杉浦人形の外観

ひな人形も五月飾りも今はコンパクトが好まれる

かつてひな人形は、五段や七段といった段飾りが主流でした。しかし現在は住宅事情の変化にともない親王（男雛・女雛）だけを求める人が大半。「戸建てよりもマンションを選ぶ若い世帯が増え、置き場所に困らないよう、コンパクトタイプが人気」と傾向を教えてくださいました。親王だけのひな飾りは、段飾りに比べて豪華さは劣りますが、シンプルな暮らしを好む人には最適。飾りも片付けも手間がかかりません。
端午の節句でも、コンパクトでシンプルな飾りが好まれ、今は人形よりも鎧兜のセットや兜のみを購入する